

2021年度 前・後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—データサイエンス教育研究センター—

センター長 小宮路 雅博

2021年度のデータサイエンス教育研究センター所管科目（以下、データサイエンス科目群）は前年度と同様に全て遠隔授業で実施され、「授業改善アンケート」も前期・後期共にWeb上で実施されている。本コメントは、前期・後期を合算して集計した結果を対象としている。

2021年度に開講されたデータサイエンス科目群について、アンケート実施必須科目は12科目であり、100%の実施率であった。教室でのアンケートとは異なり、Webアンケートの回答率が低くなるのは容易に予想されるが、このアンケートでも「延べ回答者数/延べ履修者数=回答率」は14.7%の回答率とごく低調であった。同様にWebアンケートであった前年度（2020年度）の回答率は凡そ20%強であったので、元々低かったところから更に低下したことになる。この回答率低下の原因としては、コロナ自粛が続く中での一種の「遠隔授業慣れ」や「遠隔授業飽き」による「授業改善アンケート」への関心や回答意欲の低下といったことが挙げられるかもしれない。

結果全体を通してみると、回答対象となっている設問項目（設問1～12）において5点尺度で全て平均値4ポイント台中位近辺となっており、前年度と同様に高い評価を得ている。この高評価に関しては、①データサイエンス科目群は必修科目ではなく、学生が自分の判断で積極的に言わば「好んで」履修しているので、学部科目でのそれと比して評価が高くなるのは、（履修行動の不協和解消の点でも）当然とも言えるし、また、②授業改善アンケートを満足度調査と考えれば、一般論として満足者がより積極的に回答しているものと考えられ、特にごく低い回答率の中、態々回答しているのは関心なり関与なり（任意であってもアンケート調査に答えるという）生真面目さが特に高い学生が回答しており、それが全般的な高評価に繋がっているという可能性があると言えるだろう。とは言え、回答していない8割強の履修学生が一体、どのように考え、評価をしているかについてはもちろん分からないままではある。

個々の質問項目について若干のコメントをすると以下のようなになる。

「設問1：円滑な受講」については、回答学生のほぼ全員（99.0%）が「とてもそう思う」「そう思う」と回答し、トータルで4.72ポイントとなっている。この数値の高さは前年度も同様であったので、全面遠隔授業の中で回答学生達が、円滑に受講できていたことが伺える。これは教員の授業提供が問題なく機能したものと考えられるが、受講側の事情としては、データサイエンスに興味を持っている学生達が履修しているので、彼らのPCスキルやWeb遠隔授業への順応力が元々高かったとも解することができる。

「設問2：受講生の努力」については、トータルで4.55ポイントとなっている。遠隔授

業においては、学生の自発的・積極的な取り組みが求められるので、この高いポイントは巷間、言われていることと合致しているが、元々、この科目群が学生が自発的・積極的に履修する自由選択科目である点は考慮されるべきであろう。

4.5 以上と評価が高かった項目としては、「設問 3：教員の十分な指示(4.67)」「設問 4：教員指示の分かりやすさ (4.64)」「設問 5：課題量の適切さ (4.54)」「設問 7：遠隔ツールの適切使用(4.69)」「設問 12：授業資料の見やすさ(4.65)」が挙げられる。これらは、教員側の遠隔授業への適応度やスキル・習熟を示す項目であり、前年度同様、良好に遠隔授業が行われていたことが伺える。

また、「設問 13：1 週間当たりの当該科目の勉強時間 (2.04)」は、大学全体 (2.54) と比較すると短いものとなっている。この点については、勉強に時間を費やしていないのか、逆に効率的に勉強をこなしているのかは不明である。

「設問 11：総合評価」は、授業への全般的評価を示すものとして設定されており、4.60 の数値は昨年度とほぼ同じである。因みに 2019 年度の同設問ではこの数値は 4.38 であったので、2020 年度からの全面遠隔授業への移行後の方が評価が（若干ではあるが）上がるというのは興味深い点ではある。設問 11 との相関係数の観点では、「設問 4：教員指示」が 0.76、学生自身の成果実感項目「設問 10：この分野への興味・関心」が 0.75 とそれぞれ高く、次いで「設問 5：課題量」や「設問 6：授業レベル」の相関係数が高くなっている。

授業手法 (Ⅲ) については、選択肢ア～サのうち、アの「課題 (レポート等)」が、前年度 (後期 84.1%) と同様、回答率 77.1% と突出して高くなっている。この回答率は、遠隔授業に移行する前の 2019 年度の調査では 27.0% であったので、2 か年続けての数値の高さは「遠隔授業では課題が多くなる」との良く語られる主張を裏付けているものと思われる。オのコメントペーパーも 61.0% であり、こちらも 2019 年度の 29.4% の倍増以上となっている (昨年度後期は 50.8%)。尤も、アやオは、受講学生全員からフィードバックを得る手段であるので、遠隔授業において教員が一方通行にならないように双方向性を確保しようとするれば、オの数値が上昇するのは当たり前ではあるだろう。

身についた資質・能力 (Ⅳ) については、「ア：この分野の知識、学力」が突出しており、これについては例年通りである。「ウ：数理的な能力」については大学全体と比して大幅に高くなっており、この科目群の性質をそのまま反映している。

以 上